

ビジネス感覚に優れた時代の改革者

平清盛①

一龍齋貞花

講談師

大河ドラマ「平清盛」が始った。

なぜ悪者といわれるのかと申しますと、源氏側のことを書いた吾妻鏡、平治物語、平家物語、源平盛衰記などいずれも源氏が天下の鎌倉時代に書かれたものでライバルをよく書くはずがありません。こうした本が後世に伝わり、おごる平家と悪人に仕立て上げられ、また義経は大活躍しながら追われ、美人の静御前をからませ、判官びいきと日本有数の英雄になっていったのです。

消費税アップは、2014年からということでもあり、戦国武将の税の話は中断し、ビジネス感覚に優れた時代の改革者清盛について書かせて頂こう。

タイムリーと思し召せば幸いです。

平家と源氏

第50代桓武天皇（781～806・在位25年） 地方政治振興など内政面の業績。平

安仏教の確立。比叡山に2基の神輿奉納。子孫が平氏の姓を賜わり、高望王の流れが有名で、伊勢、北条、畠山、千葉、三浦、梶原、織田など、平氏最高の位が関白太政大臣。

第56代清和天皇（858～876） 撰関政治で天皇としての実権ほとんど無し、子孫が源の姓を賜わる。石清水八幡が守護神、頼朝が鎌倉鶴ヶ丘八幡宮を源氏の守護神として祭った。武田、新田、京極、足利、今川、吉良、徳川など。武家最高の位である征夷大將軍は平氏は頂けない。秀吉が断ったという説もあるが源頼義、義家親子が、前九年、後三年の役で東北阿倍一族を滅して力をつけ、関東武士と結んで地盤を築いた。

清盛の父忠盛は、白河法皇、鳥羽天皇に仕え、25歳で越前国府越前守に就任。全国1・2位の米処で塩・鉄・馬を産出。当時敦賀港は国際貿易港として、宋、高麗船が寄港。京の都は外国人にとって魅力的な商業地。商取引で財を成し三十三間堂を造営し1千1体の仏像を安置。その功により五位の位を得て武士で初の昇殿を許された。

清盛の出自一説には、白河法皇と祇園女御の落胤説も。29歳の時西海の海賊を平定し、従四位下安芸守となり、宮島の巖島明神を信仰し、後に造営し平家の守り神として、一族の繁栄を願う「平家納経」

33巻を奉納。金を施した豪華な国宝。源氏は親子兄弟親戚が殺し合って滅亡したのに対し、平家は家族一門を大事にしている。一族の者が仲良く机を並べて写経に精を出したことであろう。

冬の夜、宿直^{とのい}の武士を自分の部屋に寝かせ朝は彼らを起さぬようそっと床を出て十分に睡眠をとらせてやるなど情があり、疑い深い性格の頼朝とは違います。

因習を打破、比叡山に一矢

清盛30歳の時、祇園祭りの一日延暦寺^{いちじつ}の法師と清盛の部下が酒の上から喧嘩。加賀白山の領地を延暦寺にほしいという申し入れが却下されたこともあり、さればと叡山の荒法師達は、桓武天皇奉納の神輿をかつぎ出した。神輿振りと称して数千の荒法師達が薙刀^{なぎなた}を手に手に京の町へ。天皇、公家といえどこの神輿にはひれ伏し、約600年の間に200回もかつぎ出し自分たちの要求を押し通おそうとした。

時しも久安3年6月、日吉山王^{ひえきさんのう}の神輿は荒法師のトキの声にのって都大路へと差しかかってきた。…とその前に敢然と立ちはだかった清盛、「人を悩ませ惑わせ苦しめる神や仏があるか、いかに多くの人を迷わせてきたといえどこの清盛をたぶらかすことは出来ぬ、覚悟せよ邪神の神輿！」 キリキリッと引き絞った重藤^{しげとう}の弓、ヒョーツと放てば、ものの見ん事神輿の真中にプスーツと突き立った。

神輿に矢を射れば矢は地に落ち、そのおろか者は血へどを吐いて即死すると信じられていた。しかし清盛は血へどを吐かず悠然と立ちはだかっていた。迷信を打破したのです。この騒ぎから荒法師を恐れる公家たちは、重罪を科そうとしたが、法皇の気持ちを察した信西入道の弁護もあり、謹慎と罰金刑ですみ、6年後忠盛が死去し莫大な遺産を相続し平氏の総帥となる。

ハリーポッター第1作「賢者の石」

崇徳天皇（義朝の父源為義、清盛の叔父平忠正）×後白河天皇（義朝・清盛）が戦った保元の乱。武者は天皇・公家の番犬として先頭に立って戦わされ後白河天皇側の勝利となり義朝は父為義を討った。清盛は功により太宰府の太宰大貳に就任。伊勢平氏である清盛は、伊勢丹生鉾山の産出量日本一という水銀の権利を有していた。体温計の水銀ならぬ別名振砂^{しんしゃ}。不老不死の仙丹薬に使用され、漢法薬では鎮静薬にも。あらゆる物を金に変える賢者の石という説も。そうです「ハリーポッターの賢者の石」。これを大陸との貿易のため太宰大貳を望んだともいわれ、福原の港や音戸の瀬戸を開いたのも大陸と貿易のためでありました。清盛の出世に対し優遇されなかった義朝が、清盛に戦いを挑んだのが平治の乱。ビジネス感覚に優れ、武家政治への足掛りを築こうというお話は次回のお楽しみ、ポポンポン。